

Support 21 

Vol.52 2013.12

Newsletter

2013年度「さぽうと21支援生とのつどい」にご参加ください

「日本で育って」「日本に生まれて」・・・でもわたしたちは日本人？

さぽうと21支援生が日頃の研究の成果を発表いたします。難民、中国帰国者や日系定住者の子弟などの支援生10名が、専攻分野や取り組んでいる活動についてご報告いたします。

インドシナ難民の受け入れから30年以上。来日後数年で大学進学を果たした支援生もいる一方、日本生まれの難民や日系定住者等の子どもたちも日本で成長し、大学や専門学校で勉強しています。

大学及び大学院で生物学や電子工学などの研究に携わる学生、国際法や経済、歴史を専攻する学生、教員を目指して外国籍生徒への学習支援に関わっている学生など、それぞれの研究を、私たちが暮らす社会にどのように役立てるかという課題について、会場の皆さまとともに考える機会となれば幸いに存じます。

発表者は「坪井一郎・仁子 学生支援プログラム」の受給生です。多くの方々のご来場をお待ちしております。

日 時:12月21日(土) 13:30~17:00

場 所:JICA地球ひろば(東京都新宿区市谷本村町10-5) セミナールーム600号室(定員:約100名)

最寄駅:JR、地下鉄各線「市ヶ谷駅」徒歩10分(タクシーは四谷駅からが便利です)

入場料:無料

お申込:お電話、FAX、Emailにてお申し込みください

社会福祉法人さぽうと21事務局

Tel:03-5449-1331 Fax:03-5449-1332 Email:info@support21.or.jp

終了後懇親会(17:00~18:00 参加費2,000円)を予定しております。

ご希望の方は、お申し込みの際にお知らせください。

スケジュール

- 13:00 開場
- 13:30 開会ご挨拶
支援生の研究発表
- 14:40 コーヒータイム
- 15:00 支援生の研究発表
- 15:30 支援生とともにフリートーク
- 17:00 閉会
懇親会(会場内にて)



昨年の発表(日本記者クラブにて)



元支援生との再会の場にもなりました

元支援生 萩原 カンナさん(カンボジア名:チアンセン テアックナーさん) アジア福祉教育財団の第34回「日本定住難民とのつどい」 (2013年10月20日)で表彰

私はこの度、アジア福祉教育財団主催の日本定住難民とのつどいにて、カンボジア代表で模範難民として表彰され、とてもうれしく思います。来日してから難民事業本部をはじめ、難民を助ける会^{【注】}、恩有る方々からたくさんの支援や指導を受けて今日に至りました。大変感謝しております。

私は、33年前の1980年、9歳の時に孤児として、親族と来日しました。現在は、主に平塚市、愛川町で外国人児童・生徒の日本語指導に協力し、かながわ国際交流財団の多文化サポーターとして外国人の方々の生活・教育相談や通訳をしています。その他に、入国管理局、警視庁、裁判所などで通訳として活動しています。内戦のため、カンボジア語の教育を受けておらず、日常会話しかできませんでしたが、日本語の知識と学校生活の経験を生かして教えたり、難民を助ける会からして頂いたように生徒の家庭問題や悩みの相談に関わることで、自分が必要とされている、役に立つことを感じ、自信にもつながりました。その後、外国籍県民かながわ会議の第1期生として提言や、相模原市で、外国人児童・生徒の日本語指導協力や医療通訳などもさせて頂きました。

難民を助ける会との関わりは、高校1年生の時に友人に誘われて夏合宿や運動会、サッカー大会に参加させて頂いたのが始まりです。来日後難民同世代との関わりがなかった私には、かけがえのない出逢いをつくることができました。今でも親しくお付き合いしている友人達は、その頃に知り合った仲間達です。それが難民を助ける会の事業を引き継いださぼうと21の奨学生として支援を受け、いろいろな相談に乗って頂くきっかけにもなりました。経済面で大学進学を諦めようとした時も、さぼうと21の入学支度金貸付制度によって支援して頂きました。

結婚してからすぐには子供に恵まれなかった事もあり、縁あって養子を2男2女迎えました。私も夫も元奨学生で、娘たちも奨学生として支援して頂きました。特に合宿で娘達の行動を注意して下さった柳瀬(難民を助ける会)会長が「あなた方の娘達だからこそ、厳しく注意した」と言って下さった一言は、私達家族への愛情や期待を感じ、とても励みになりました。

私の通訳サポートをする上での強みは、家族共々20数年来の難民を助ける会との関わりで得た実体験を元に代弁やアドバイスができる事です。そしてカンボジア語は会話程度しかできなくても、通訳やサポーターとして活躍できる事を伝え、人材育成にも貢献していきたいです。

萩原 カンナ

【注】さぼうと21は1992年の設立時、難民を助ける会から就学支援や相談室などの国内事業を継承。現在の支援活動につながっております。



カンボジア代表として表彰



ご家族や当会役員とともに

2014年度「生活支援プログラム」支援生を募集します

募集期間

2013年12月16日(月)～2014年1月31日(金) (消印有効)

応募資格

- ① 日本在住の外国籍または元外国籍の学生で、下のaまたはbに当てはまる方
 - a) インドシナ難民・条約難民とその子弟
 - b) 中国帰国者の子弟、または日系定住者(中南米など)の子弟
 ※ 同様の事情がある、外国籍または元外国籍の方も申請可
 ※ 在留資格が「留学」の方は応募不可
- ② 学費の負担が困難な方
- ③ 2014年4月に日本の高校、専門学校、短大、大学に通学中/入学予定

支給期間と金額(返済義務はありません)

【支給期間】2014年4月～2015年3月

【支給年額】高校生	60,000円～120,000円
専門学校、短大、大学生	120,000円～360,000円

大学3・4年生と大学院生対象の「坪井一郎・仁子 学生支援プログラム」もあります。
(募集期間:2013年11月11日(月)～12月11日(水) 必着)



詳しくはホームページをご覧ください
<http://support21.or.jp>

学習支援室は 「学びの秋！ イベントの秋！」

学習支援室には今、高校受験を控えた中学3年生、中学3年生の子どもをもつ親たちが、それぞれちょっと不安な気持ちをもちながら勉強に通っています。そんなちょっと重苦しい空気を吹き飛ばすように、学びの秋、イベントの秋が元気に進行中です。

9月28日、3年目3回目を迎えるIBM社員有志ボランティアによるワークショップが行われました。今年もチームごとに優勝を目指して知恵を出し合い競技にのぞみました。限られた「紙」と「セロテープ」と「はさみ」だけを使って、目標物のより近くまでビー玉を転がせたチームが勝ち！ 子どもも大人も、ボランティアも受講生も、普段見せることのない真剣で慎重な姿勢で課題に取り組みました。ビー玉が止まる度に一喜一憂する姿は、とても微笑ましいものでした。最下位の大人3人には罰ゲームとして青汁が用意されていましたが、それを口にする皆さんの表情さえ心なしか嬉しそうに見えます。



真剣です!!



青汁ぐらいへっちゃら

10月5日、6日、日比谷公園では恒例のグローバルフェスタが開催され、姉妹団体のAAR JAPAN【難民を助ける会】も出展しました。今年はテーマ国がミャンマーということで、学習支援室受講生の11名が、シフトを組んでお手伝いにあがりました。お客様に「ロンジー（巻きスカート）を着せてさしあげる」「タナカと呼ばれる化粧（清涼剤&日焼け止め&基礎化粧品）をしてさしあげる」「ビルマ文字でお名前を書いてさしあげる」お手伝いです。難民として日本にいる皆さんには、母国は今はまだ帰ることのできない土地です。でも、背筋をピンと伸ばして、お客様の質問に答える皆さんの表情は、誇りに満ち溢れて見えました。



ロンジー似合います!!



「タナカ」準備中

10月19日、初めての「接客マナー講座」が行われました。さぼうと21の学習支援室を主な活動場所として行われている「カフェプロジェクト」の一環として実施された講座です。このプロジェクトは「将来カフェを開きたい」という難民の方々のご希望からスタートし、バイエルホールディング株式会社が社員向けに提供しているボランティア活動支援金により様々な取組が続けられています。講師の矢野誉美さんの美しい身のこなしや、物腰柔らかく爽やかなお話ぶりは、どの国の方から見ても気持ちのいいものです。学習支援室受講生は、その多くが飲食業で生計をたてており、その仕事の場ではもちろんですが、日常生活の中で人と接する際にも大いに生かせる内容の講座となりました。講座終了の頃は、参加者全員「おもてなし」のできるプロ気分にはたっているように見えました。



矢野講師に見守られ実践中



物の受け渡しも美しく…大事なのは“心”

今年度も文化庁の委託事業として採択を受け、10月5日には「難民のための初級日本語教室」、11月2日には「日本語教室ボランティア パワーアップ講座」がスタートしました。



ご遺贈を賜りました



長年会員として活動を支援して下さいました内田 啓明様が、2012年11月16日に逝去されました。ご遺言に基づき、今年8月、相続財産の一部である801万789円のご寄付を賜りました。お志に感謝し、大切に使用させていただきます。

さぼうと21の支援生は経済的な困窮度が高く、入学時に必要な費用の負担や学業の継続に困難を抱えております。これからも、進学支援や、定住に必要な日本語などの学習支援を通じて、外国出身者の自立をさらに一層後押しする活動を続けてまいります。

内田 啓明様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

理事長 吹浦 忠正

2013年度夏期研修会 開催報告

おかげさまで、高校生から大学院生までの支援生約50名を対象に、今年も夏期研修会を開催しました。猛暑の中、卒業した支援生OB・OGも多数参加し、職場の様子や、社会人として感じていることなど、後輩たちに貴重なコメントをしてくれました。

参加者の声 ～わたしにとって夏期研修会とは～

2013年度も例年通りグループワークや都内観光、レクリエーションなど、交流を深めたり、考えを共有したり、私たちが「一つの輪」を作るためのプログラムが組まれていました。そうやって生まれる友情が、私に来てよかった、と毎年思わせてくれます。そして自然に“また来年”と言って友達と別れるその瞬間が、寂しくもあり、嬉しくもある瞬間です。初めて参加したときは「出かける」場所だった夏期研修会は、いつの間にか「帰ってくる」場所、つまり“ただいま”と言える私の一つの居場所となったのです。

(グエンニャットアウさん ベトナム・大学3年)

開催内容

■ 日程

8月17日(土)～19日(月) 2泊3日

■ 会場

国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

■ 主なプログラム

映画上映会

元支援生宮ヶ迫 ナンシー理沙さんの監督作品「Roots of Many Colors」を上映し、支援生や日本人大学生がディスカッション。自分のルーツや日頃の想いを共有しました。



自由参加講座〈学習支援室ボランティア講師のご協力による〉

- 1) 話し方講座 講師：久保田 真樹子さん(日本語教師、元アナウンサー)
- 2) 社会で活かせるメイク 講師：尾崎 憲子さん(メイクアップセラピスト)

ワークショップ

「ワールドカフェ みんなで友だちの悩みを解決しよう!」
 青少年の自立支援活動に携わる石井 正宏さん(株式会社シェアするココロ代表)を迎え、進路選択に関するワークショップを開催。

NHKスタジオパーク見学

支援生同士グループ行動で、どーもくんと記念撮影や渋谷散策。



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.52 2013.12

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治・宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を求めています!

■会 員：法人会費 50,000円
 : 個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

住所： 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階	
TEL： 03-5449-1331	FAX： 03-5449-1332
E-mail： info@support21.or.jp	URL： http://www.support21.or.jp
印刷会社： 秋田協同印刷株式会社	編集・発行： 社会福祉法人 さぼうと21

